

## 地域づくりの検討がスタート

岩手県金ケ崎町では、人口減少や価値観の多様化等、様々な変化に対応した地域づくりを進めるため、2017年度に「地域づくり

検討会を設置するにあたり、私には苦い経験があった。過去に計画策定を担当した際、「誰が」主体的に取り組むのかという議論が不十分で、「絵にかいた餅」になっ

てしまったことがあったのだ。検討会は2か年にわたって全7回開催された。しかし、約2時間の検討会では一人当たりの発言が約10分と限定され、十分な発言ができない。そこで、検討会の合間に別途委員一人ひとりと意見交換

の機会を設けた。すると、この意見交換が大きな効果を発揮する。「検討会では話せなかつたけど、実は……」と、多くの委員が本音で話し出したのだ。この積み重ねから検討会の議論がより活発なものに変わっていった。

### 役場の中にも必要な対話の場

役場の中からも思わぬ反応が生まれた。「私も○○で困っている」「○○について、地域ではどんな課題があるの?」といった相談が多くされるようになったのだ。役場の中にもまた、本音で話せる対話の場が必要だったということだろう。価値観が多様化し、課題が複雑化する中で、課題に向き合う職員には不安感や不信感が高まっている。特に福祉や教育、産業といった様々な分野では「地域づくり」がターゲットになり、政策間の連携が必要だ。



本連載は「自治体改善マネジメント研究会」のメンバーが執筆しています。同研究会は自治体で改善運動を推進してきた職員と行政経営デザイナー元吉由紀子が共同で設立。実践事例情報を収集、分析し、ナレッジ化して情報発信している。2017年にNPO法人化。ホームページ、Facebook「自治体改善の輪」を運営。

### 第16回

## 「本音」から始まる地域づくり

推進室」を新設し、私もその担当となった。推進室では、まず人口動態や住民アンケート、地域性の分析を実施。17年7月には、住民などで構成する「地域づくりのあり方検討会」を設置した。

そのため、今回は、委員の選定にあたって検討会の趣旨を一人ひとりに伝え、自分事として議論できるように丁寧に説明を行った。

### 一人ひとりの本音を知る対話

検討会は昨年10月に最終報告書をまとめ、町長に提出。行事や組織の見直しによる負担の軽減や、働き方や価値観の変化に対応した地域づくりの変化などを提言した。推進室では、職員や地域で説明会を開催し、広報紙でも「過渡期を迎える地域づくり」という特集を組み、報告書の周知に努めた。住民からは、共感の声が寄せられ始めている。報告書や広報紙の情

報発信が、「私も本音で話してよ」という雰囲気をつくったのだ。このような時だからこそ、安易に答えを求めず、本音で語り合える対話の場づくりからじっくり始める必要がある。そこでの関係の積み重ねがベースになればこそ、一人ひとりの気づきを促し、より良い地域の将来像を描けるようになるのではないかと。

私も、4月から職員有志によるオフサイトミーティング、金ケ崎のカタリバグをスタートさせた。出来ることから始めてみよう。